

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年5月26日

【評価実施概要】

事業所番号	1070900160
法人名	医療法人 育生会
事業所名	グループホーム フォーシーズン
所在地	群馬県藤岡市篠塚102 (電話) 0274-50-1333

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年9月27日

【情報提供票より】(19年 8月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 8月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	19 人	常勤 10人, 非常勤 9人, 常勤換算	15.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての,	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	寝具代
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1500 円			

(4) 利用者の概要(8月 31日現在)

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	23 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	8 名	要介護4	7 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.7 歳	最低	57 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	篠塚病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム内は、採光や照明の調節がよく明るい雰囲気となっている。職員は、温かい雰囲気の入居者と接し、調理の手伝いなど得意なことをしていただき、生活に張りをつけるよう努めている。各居室から中庭が見渡せ、草花の様子を見ることができ季節感を感じることができる。居室には、入居者の好みの物が置かれていたり、飾り付けがされる等くつろげる雰囲気づくりが配慮されている。健康管理面では、母体が医療機関であるため、連携が密に図られ入居者は、安心できる体制となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価より課題を改善計画シートに記載し、具体的な改善に取り組んでいる。また、前回評価の課題である広報の発行について、繰り返し運営推進会議で検討を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員も自己評価を行い、管理者と職員が共に共通認識が図られよう取り組み内容の確認を実施している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されている。市の職員・地域住民・入居者家族の方々が参加し、ホームの行事等の連絡や報告の内容について協議されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会等の訪問の際、日頃の様子の報告と併せて希望や相談を受け付けるように努めている。また、運営推進会議に家族にも参加していただき、意見等を聞き運営に反映できる機会を設けている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>同一法人の病院や老人保健施設と一体となった地域社会との連携に取り組んでいるが、隣接する農業科の高校へ出かけ花の鉢植えを購入したり、保育園の運動会に参加したり、介護の実習生を受け入れる等ホーム独自の地域との交流を図っている。また、母体病院の玄関に塗り絵・編物・小物等の入居者の作品を展示し、来院者に見ていただいている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者と職員の関係を大切にした理念を、同一法人の病院や老人保健施設と共につくり上げている。しかし、地域密着型サービスとしての理念が作りあげていない。	○	母体組織の理念を受けて、地域密着型サービスの意義も職員と共に話し合い、グループホームとしての理念をつくり上げて欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をポケットサイズに印刷したものを全職員に渡し、職員は携帯いつでも見られるようになっている。ミーティングでは読み合わせを行い、理念の共有と実践に向けて取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する農業科の高校へ出かけ花の鉢植えを購入したり、保育園の運動会に参加したり、介護の実習生を受け入れる等地域との交流を図っている。また、母体病院の玄関に塗り絵・編物・小物等の入居者の作品を展示し、来院者に見ていただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価より課題を改善計画シートに記載し、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催している。「広報誌をどうするか」等数ヶ月に渡り検討するなど運営や取り組みの話し合いを行ない、意見をホームの運営に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回は、市からの派遣事業である介護相談員の訪問活動を受け入れ、入居者からの相談を受付けている。また、市への問い合わせや相談は電話で行い連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回の利用料金の支払の際、家族に入居者の様子を報告したり、希望を聞いている。面会時にはなるべく声をかけ、必要に応じてコミュニケーションを図っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、家族の代表が2人出席し、広報誌のことや行事の報告を行い、家族の意見を聞き反映できる機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3ユニットあるが、入居者と職員の馴染みの関係を大切に、職員の異動はほとんどしていない。異動がある時は、その都度入居者や家族に説明している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同一法人の病院や老人保健施設での研修や県の介護研修センターの研修に参加している。また、職員からの希望で研修を受講する機会を設ける等、職員を育てる取り組みを行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡協議会や協議会西部ブロックの会議及び研修会に参加し交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたって、より理解を深めるために入居者の趣味・嗜好・社会的活動状況等を記入する入居調査表の作成をしている。また、本人・家族をホームの見学に誘い、徐々に雰囲気に馴染めるよう工夫している。また、入居当初は本人の観察を集中的におこないアセスメントをしっかり取ることに心がけている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者を人生の先輩として、日頃から傾聴の姿勢で接している。入居者の出来る作業や得意なことについて、協力していただき支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から、面会の際に入居者の思いや希望などの意向を聞いたり、職員から、ミーティングで入居者の様子等の情報を出し合い、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、ケアマネージャーが、職員に意見を求め気づいたことや要望をプランの修正の参考として、作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しを行ない、日常的变化や対応の変更は申し送りノートに記載し、職員は確認している。家族には説明し、併せて希望を聞き、確認の上サインを受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の健康管理については、同一法人の病院が協力医療機関となっており、適切な医療が受けられるよう支援している。また、通院の付き添いも行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一法人の病院がかかりつけ医となっている入居者が多いが、耳鼻科・歯科・皮膚科等他の医療機関への受診の希望を聞きながら、入居者の通院支援を行うなど適切な医療を受けられるよう努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居手続きの時期から、家族の意向を確認している。また、健康状態等の変化があった時は、医師と連携をとり、家族の意向を把握している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報のマニュアルや倫理規程を定め、職員に研修会等で周知している。職員のさりげない言葉かけや対応が、入居者の尊厳を大切にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを尊重し、居室で寝たいと希望する人には、後で食事する等職員側の都合を優先させず、本人の意思を確認しながら対応している。食後も居室でCDを聞く人等、本人の希望にそった支援を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の一部で、野菜の皮むき等入居者の出来ることを協力していただき、一緒に食事の準備をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日を決めず、入居者の希望を聞きながら支援している。入浴を嫌がる場合は、体を拭くなどして対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫・園芸・漬物づくりなど、入居者の得意なことを職員と一緒にこなしている。同一法人の老人保健施設の音楽療法に参加し歌を歌ったり、楽器演奏をしたり、楽しむ機会を設けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日頃から、中庭や近くの公園への散歩を行なっている。また、100円ショップ等への車での買い物、ドライブ等の外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は理解しながらも、以前に無断で外出してしまった入居者がいたことがあるので、やむをなく昼夜玄関等の鍵をかけている。	○	安全の確保にも留意して、まずは鍵をかけない時間帯を作る等の工夫を期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を、消防署員の立会いの下年2回実施している。火災発生時には、消防署へ非常通報される設備が設置され、同一法人の老人保健施設と病院との協力・連携体制が整っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝・夕の食事は、同一法人の病院より届けられ、昼食のみ入居者と相談しながら献立をつくり、職員と一緒に調理している。食事の摂取や水分摂取の量は、個人別の記入用紙に記載し共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は台所に面しており、料理をしながらでも、すぐ近くで入居者と触れ合えるようになっている。また、中庭にそのまま出られるなど開放的である。照明は、間接照明となっているので目に優しく、廊下のコーナーには椅子が配置され、思い思いに過ごすことが出来るよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ベッドや布団等本人の希望や状況に応じた対応で暮らしやすい配慮がされている。また、写真が飾ってあったり、CDがあったり、使い慣れた好みの物で心地よく過ごせるよう配慮もされている。		